平和・民主・革新の日本をめざす東京の会
東京革新懇 mailfaxニュース
2025. 12. 24
№1681
〒170-0005 豊島区南大塚2-33-10 東京労働会館５階
TEL. 03-3947-7901 X03-3947-7902
E-mail tokyo@t-kakushinkon.org
ホームページ「東京革新懇」
部内資料

【調布『憲法ひろば』12 月 22 日第 248 号より了解を得て転載】

調布「憲法ひろば」　友寄英隆さん講演
AI とは何か　AI の利便性とリスクを考える

12月14日(日)13:30～、友寄英隆さんのお話を伺いました。会場はあくろすホール。参加はネット視聴3人を含め30人でした。司会は丸山重威世話人、記録は岩本努世話人が努めました。

ＡＩ（artificial intelligence）という話はむずかしいとの声がある。

この名称は1956年に米国で開かれたコンピュータの研究者たちの会議で生まれた。辞典では「推論、認識、判断など、人間と同じ知的な処理能力持つコンピュータシステムである。人工知能の研究は、人間の知能を人工物として実現することを目的とするが、それだけでなく、それを通じて知能の働きを解明する研究分野でもある」と説明されている。生成ＡＩとは、人間の求めに応じて文章、画像、音楽などを作成してくれるＡＩのことである。ＡＩと一緒にでてくることばでＳＮＳはSocial Networking Serviceの略。

スマホやパソコンで、インターネットを通じて家族や友人、趣味や興味を共有する人々とつながり、写真や動画、メッセージなどを交流することが出来る。

ＳＮＳを運営するＩＴ大企業のプラットフォームは、①コンピュータの集合体、②データセンター、③情報を分析・加工するＡＩなどのアルゴリズム（情報処理の方法）の３つの要素からなるＳＮＳの基盤。ＩＴ大企業がＳＮＳによって獲得している広告収入は増大している。2023年の日本の総広告費は約７兆３千億円だが、そのうちＳＮＳからの分は9735億円で約13%にのぼる。

AIを資本主義社会で開発・利用するには「厳格なルール」が必要

ＡＩが広まれば広まるほどよいことばかりがあるとはかぎりません。少し前に私はＡＩに「岸田内閣の安保３文書とは何か」と問いかけてみました。その時、誤回答が多かったのです。アメリカでも黒人、女性差別問題でその傾向が多いと聞きます。人間の精神活動には知・情・意が繋がっている。視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚は切り離せない。コンピュータには人間の様な感覚はありません。だから藤井７段（旧）は将棋ででているのです。美空ひばりは亡くなって相当たちますが、ＮＨＫが最近の流行歌を美空ひばりの声で復活させようとしましたが、可哀そうだという声もありました。本人の意思を確かめないで「復活」はありません。画家・モネの絵の欠けた部分の復活も試みられたことがありました。企業にとっても人減らし問題などが関わって困っています。人間がいなくてロボットを使うという話もあります。教育現場にとってもそうです。人間が教育をするのです。ＡＩが教育をするのでは教育ではありません。16歳以下にはＳＮＳを使わせないということがオーストラリアでは決まったようですが、今、世界が注目しています。イギリスの工場法の変更には70余年を要した。もう一つ大事なことは著作権の問題。新聞社で現在問題になっています。

結びに代えて

友寄さんは以下の４点を結びとした。①ＡＩやデジタル技術には、利便性と危険性の両面がある。②現実的な矛盾の解決こそが大事だ。ＡＩへの丸投げ路線では問題は解決しない。③ＡＩには厳格な「社会的ルール」が必要である。④ＡＩの悪用、軍事利用、監視国家には断固反対する。

多様に質疑応答

講演の後、質疑がおこなわれた。その中で、「ＡＩは人類的な力で危険性を排除する必要がある」「息子はＡＩと結婚する。お母さんとは話し合わない、といっている」「東北地方のクマの出現、瀬戸内のカキ･･･温暖化の問題と関係している。人類がそれに気づく運動とＡＩが気付くのとどちらが先か？」などの問題が出された。これについて友寄講師は「ＡＩは知・情・意のうち情・意は持っていない。破局の中から新しいものを見つけるのが人類の歴史である。」と答えていた。